

◎基本情報

事務事業名		災害用備蓄事業		担当部署	企画総務部 危機管理局 危機管理課		
総合計画体系				根拠法令 計画など	鳴門市地域防災計画・鳴門市地震津波対策推進計画・国民保護法第146条・災害対策基本法第49条		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり		事業期間	開始	平成	16年度
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なる			終期	未定	
(小項目)		危機管理・防災					
施策	1	災害に負けないまちづくりの推進					
基本事業	3	防災施設・資機材等の整備					

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 災害時に避難した市民等の避難者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	災害時に避難所での生活を余儀なくされた市民等が少しでも安心して過ごせるよう、計画的に備蓄物資を整備する。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」に即した本市の備蓄計画に基づき、生命維持や生活に最低限必要な食糧・飲料水等のほか、簡易トイレや生理用品など、避難生活に必要な物資について備蓄を進める。また、市民への災害用備蓄の啓発や、災害用備蓄資機材の整備等についても継続して取り組んでいく。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		アルファ化米の備蓄量	23,750	39,708	39,708	39,708	39,708	食

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」で示された備蓄目標の中で、平成28年度は毛布・アルファ化米について目標を達成し、すべての備蓄品目等について目標を達成した。 また、賞味期限切れ間近となったアルファ化米を活用し、市民への災害用備蓄について啓発を行うとともに、災害用備蓄資機材の整備等についても継続して取り組んだ。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
活動指標	実施した事業の活動量を示す指標	指標名	27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標		1 アルファ化米の備蓄量	23,638	39,840	39,708	39,708	39,708	食
		2 粉ミルクの備蓄量	20,000	20,088	20,088	20,088	20,088	g
成果指標	対象にどのような効果があったか示す指標	アルファ化米の備蓄量	23,638	39,840	-	-	-	食
		目標達成率(実績/目標)		100.3	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	0	0	0	5,307	5,307
		補正予算額	0	0	0	3,500	△ 1,481	2,019
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	3,500	3,826	7,326
		決算額	0	0	0	3,500	2,293	5,793
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費
	0.1	0.0		713		6,506		

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	5,379	5,793	4,893	4,893	1,959
	うち一般財源	2,464	2,293	2,841	2,841	1,959
	人件費	686	713	713	713	713
	総事業費	6,065	6,506	5,606	5,606	2,672

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」にある備蓄目標の達成に向けて、着実に備蓄を進めることができたため。
	効率性	B:概ね効率的だった		備蓄食糧等の各避難所への配置・更新作業について、学校施設の発電機の点検時に併せて作業を行うなど、効率化について検討する余地があるため。
②成果に対する評価	指標名	アルファ化米の備蓄量		目標に到達したためA評価とした。
	目標	39,708	食	
	実績	39,840	食	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		目標に到達したためA評価とした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	災害時に被災した市民が避難所等で安心した生活が送れるように、この備蓄計画にある物資以外の備蓄も含め、本市の備蓄計画の見直しを検討する必要がある。 また、現在、計画的な物資の備蓄を行う体制が整備されているが、災害時に、より迅速に対応するためには、保管場所や運搬方法等について検討を要する。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	他の自治体の備蓄状況や方針を参考に、本市の備蓄計画の見直しを行い、予算の確保に努める。また、従前より備蓄を行ってきた市災害対策本部13支部に加え、災害時に、地域住民の有効な避難所となる小・中学校に備蓄を行うなど、分散備蓄に努める。			
	H30年度	予算の確保に努め、従前より備蓄を行ってきた市災害対策本部13支部に加え、災害時に、地域住民の有効な避難所となる小・中学校に備蓄を行うなど、分散備蓄に努める。			